

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 38 週 2026 年 9 月 14 日 ~ 9 月 20 日

今週のコメント

南丹保健所管内では、
インフルエンザが流行期入りしています。

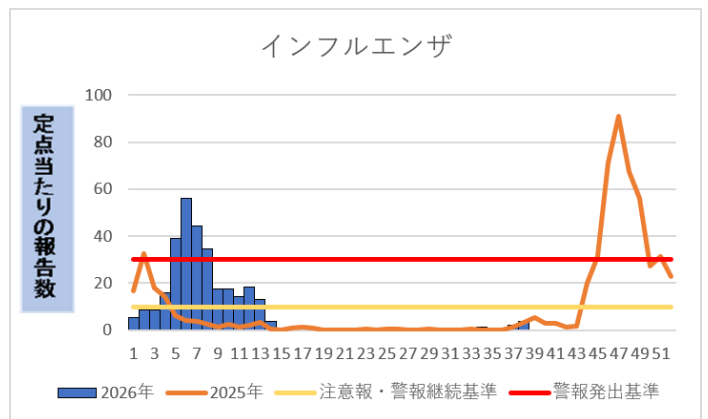
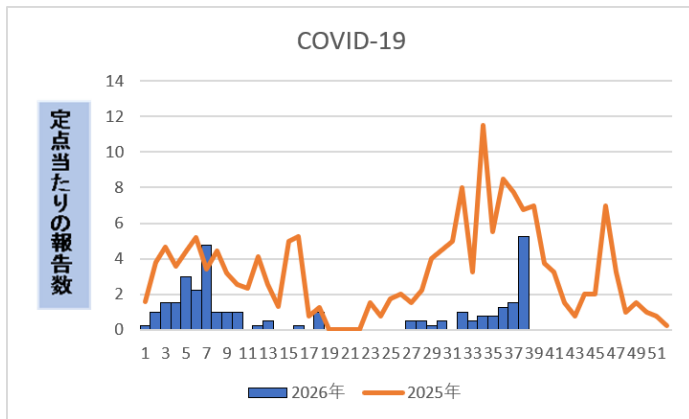
2026 年第 38 週の報告です。

○新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数は、南丹 5.25(前週 1.5)、京都府 2.86(前週 2.81)となっています。

○インフルエンザの定点あたりの報告数は、南丹 3.75(前週 2)、京都府 5.64(前週 4.36)となっています。

○手足口病の定点あたり報告数は、南丹 3.5(前週 1)、京都府 1.08(前週 0.97)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



1 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。

2 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

秋から冬にかけて注意したい感染症について

気温が下がり、空気が乾燥する秋から冬の時期は、インフルエンザやマイコプラズマ肺炎、ノロウイルスによる感染性胃腸炎などの感染症が例年流行しています。

○インフルエンザとは？

インフルエンザウイルスに感染することで起こる感染症で、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、全身倦怠感等の症状は比較的急速に現れるのが特徴です。併せて、のどの痛み、鼻汁、咳などの症状も見られます。基本的な感染症予防に加え、発病予防や重症化予防を目的にインフルエンザワクチンの接種もご検討ください。

○マイコプラズマ肺炎とは？

肺炎マイコプラズマという最近に感染することで起こる感染症で、発熱や全身の倦怠感、頭痛、咳などの症状がみられます。また、咳は熱が下がった後も長期にわたって(3～4 週間)続くことが特徴です。感染してから発症するまでの潜伏期間は長く、2～3 週間くらいとされています。

○感染性胃腸炎とは？

感染性胃腸炎の中でもノロウイルスによるものは感染力が強く、アルコール消毒が効かないことが特徴です。感染から発症までおよそ 24～48 時間で、吐き気、激しい嘔吐、下痢、腹痛、発熱などの症状がみられます。

～予防方法について～

手洗い、うがい、手指消毒を行うことや適度な湿度を保つこと、十分な休養とバランスの取れた栄養を取り免疫力を高めることなどが予防方法としてあげられます。ノロウイルスには、食品の十分な加熱(二枚貝などは食材の中心部温度が 85～90℃以上で 90 秒以上)することや十分な手洗い、次亜塩素酸ナトリウムでの消毒が有効です。

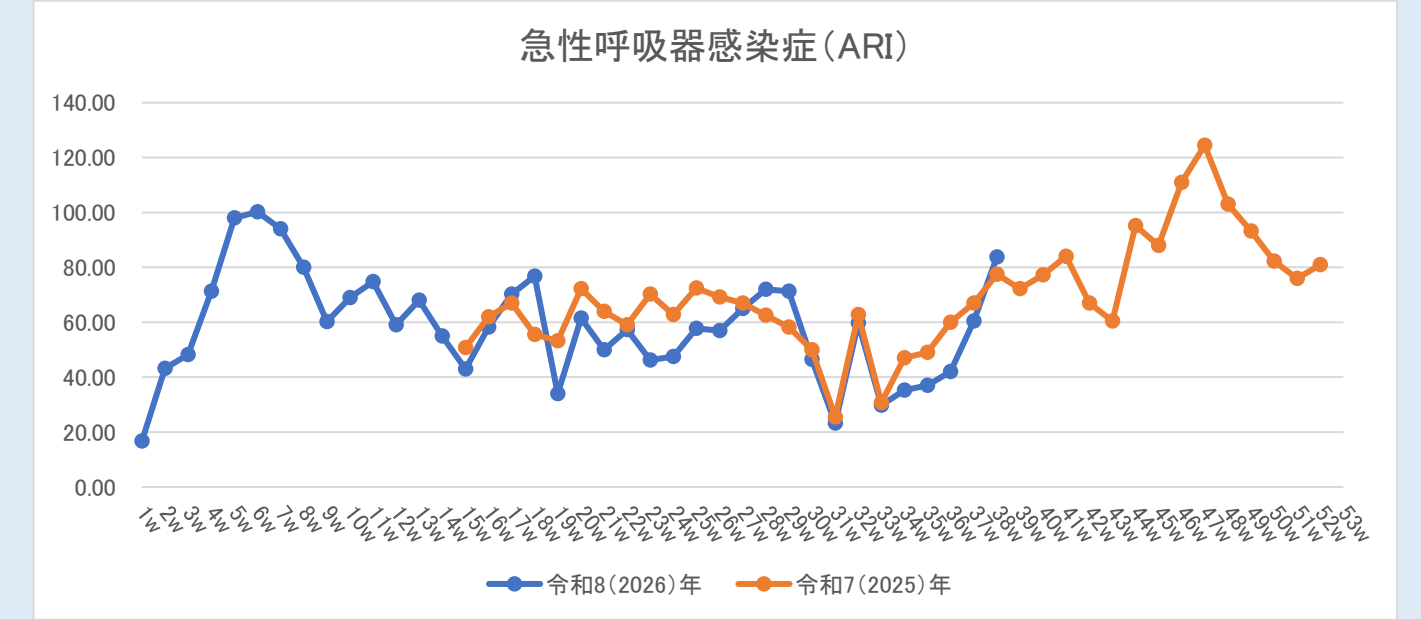
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R8.38w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	3.75	↗	2.00
新型コロナウイルス感染症				5.25	↗	1.50
RSウイルス感染症				0.00	↘	0.50
咽頭結膜熱	3	1		0.00	→	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		0.00	→	0.00
感染性胃腸炎	20	12		0.00	↘	1.00
水痘	2	1	1	0.00	↘	0.50
手足口病	5	2		3.50	↗	1.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.00	→	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		2.50	→	2.50
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第38週報告数は335件(定点当たりの報告数83.75)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期:(原則)毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)